記載例

＊ 1 8 9 8 3 3 6 － 3 ＊

遺伝子組換え実験計画書

実験の区分　機関実験
計画書 ID　植物 1898336-3
課題名　GFP 遺伝子を持つプラスミドの作成
実施期間　2024 年 2 月 14 日 〜 2028 年 7 月 31 日
承認日　2024 年 6 月 5 日
実験責任者氏名　組換 太郎
実験責任者所属　組換部門 組換え研究室
実験責任者連絡先　kumikae@jikken.jp (1234)
連絡責任者　組換え研究室 組換 花子 (5678)
実験場所　※テスト用, Test 別棟, Test_1001 実験室（P1）

実験従事者　組換部門 組換え研究室 組換 花子
組換部門 組換え研究室 組換 太郎

実験の目的　GFP 遺伝子を利用するため、汎用プラスミドに入れて大腸菌に形質転換する。
実験の概要　GFP 遺伝子を pBluescriptSK+ と pUC19 に入れて大腸菌 DH5 α に形質転換してクローン化する。大腸菌からプラスミドを精製する。
日々の実験が終わった後、実験に用いた器具、培養液等は、121 ℃ 20 分のオートクレーブ処理、あるいは、70% エタノールを用いて遺伝子組換え体の不活化を行う。
安全委員会が本実験計画の実施を適当と認める理由　本欄内では、「研究開発等に係わる遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令（平成 16 年文部科学省・環境省令第 1 号)」を省令、「研究開発等に係わる遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令の規定に基づき認定宿主ベクター系等を定める件（平成１６年文部科学省告示第七号)」を告示と略して記載する。
本実験計画の実験番号 1、2 は、微生物使用実験（省令第四条第一号）である。微生物使用実験における宿主は、認定宿主ベクター系に該当する (告示第一条及び別表第一) 実験分類がクラス１ (省令第三条第一号) となるものである。また、核酸供与体の実験分類はクラス１ (省令第三条、告示第二条および別表第二) である。供与核酸は、実験分類がクラス１の核酸供与体由来である。従って、当該実験の拡散防止措置の区分は、宿主の実験分類がクラス１であることからＰ１ (省令第五条第一号イ) となる。
本申請の拡散防止措置の区分は、それぞれ微生物使用実験はＰ１として申請されていることから、本委員会は、計画の実施を認めることが適当と判断する。
備考

実験番号　1

区分 微生物使用実験 (**拡散防止措置** P1)
宿主の名称・由来 大腸菌 DH5 α (Escherichia coli K-12)
宿主の実験分類 クラス 1
ベクターの名称・由来 pBluescript
宿主ベクター系 B1 系　EK1
核酸供与体の実験分類 クラス 1
ベクターを構成する核酸・ベクターに挿入する供与核酸
■ pBluescript
E. Coli【lac-P, lac-O, lacZ α, AmpR-P, AmpR】, Phage f1【f1 ori】, Phage T3【T3-P】, Phage T7【T7-P】, Plasmid ColE1【ColE1 ori】

《供与核酸 (核酸供与体) の名称 》
■ GFP 、M62653 (オワンクラゲ、Aequorea victoria)

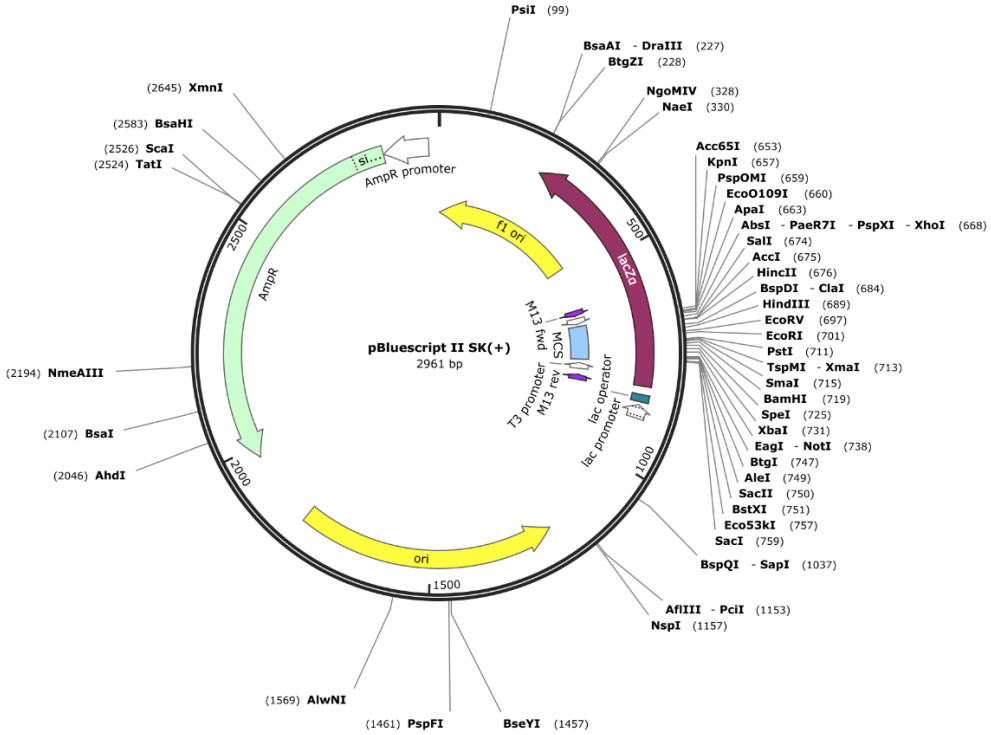
供与核酸の同定・未同定 同定
組換え生物等の特徴 特になし

実験番号　2 (変更)
区分 微生物使用実験 (**拡散防止措置** P1)
宿主の名称・由来 大腸菌 DH5 α (Escherichia coli K-12)
宿主の実験分類 クラス 1
ベクターの名称・由来 pUC18/19
宿主ベクター系 B1 系　EK1
核酸供与体の実験分類 クラス 1
ベクターを構成する核酸・ベクターに挿入する供与核酸
■ pUC18/19
E. coli【AmpR, Amp-P, lacZ α, lac-P, lac-O】, Plasmid ColE1【ColE1 ori】

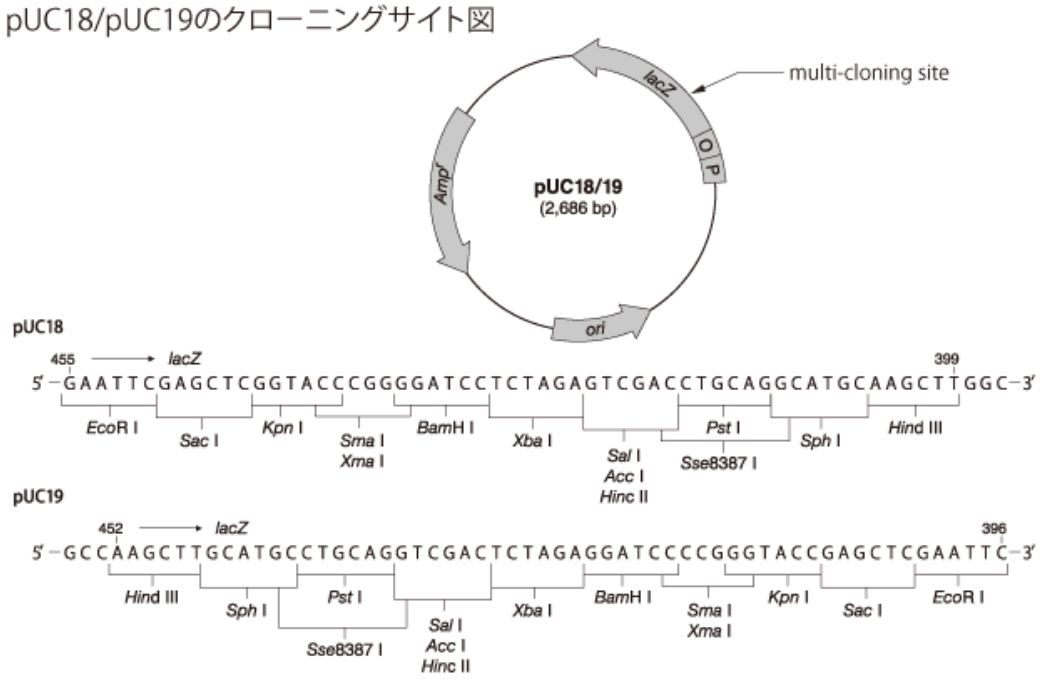
《供与核酸 (核酸供与体) の名称 》
■ GFP 、M62653 (オワンクラゲ、Aequorea victoria)

供与核酸の同定・未同定 同定
組換え生物等の特徴 特になし

pBluescript II SK+



pUC18,19



＊1898336-3＊